

令和 2 年 7 月 7 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16970

研究課題名(和文)現代インドにおける遺伝子の社会的布置に関する人類学的研究

研究課題名(英文)Anthropological Study on the Social Configuration of Genes in Contemporary India

研究代表者

松尾 瑞穂(Matsuo, Mizuho)

国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授

研究者番号：80583608

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代インド社会において遺伝子というサブスタンスとそれまつわる諸実践が、いかに個と集団の関係性に変容をもたらしているのかを検討することで、科学的知識と実践が社会のなかで「共生(production)」される動態の一端を明らかにした。具体的には、第三者が関与する生殖補助医療に関する調査から、配偶子や胚の提供と供与まつわる言説と実践について分析し、そこからインドにおける社会集団の差異、特に近年の新たな動向として、カーストではなく宗教的差異(ヒンドゥーとムスリム)が「本質化」される傾向にあるという新しい動きを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

遺伝子をめぐる言説は、親子関係のみならず個人や集団の本質を示すものとして、生物学的定義を離れた社会的想像のなかで複製され続けている。本研究は、インドにおける生殖補助医療の場において、遺伝子が個人と集団の関係性の基盤として新たに現れるさまを検討し、遺伝的つながりをめぐる言説と実践をより広い社会歴史的文脈の中に位置づけることで、遺伝子本質主義という誤謬を相対化するものである。

研究成果の概要(英文)：This study reveals the dynamic process of co-production of scientific knowledge and practices in contemporary Indian society by examining how the genes and the practices associated with it are transforming the relationships between individuals and groups. Specifically, this study examines the discourse and practices related to gestational surrogacy and donor gametes and embryos in third party assisted reproductive technologies(ARTs) in West India. It points out the emerging tendency for people that religious differences (Hindu and Muslim) rather than caste have been more concerned for selecting donors and recipients, implying the 'naturalization' of social differences in the clinical context.

研究分野：文化人類学

キーワード：サブスタンス 第三者が関与する生殖 遺伝子 生殖補助医療 インド

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

生殖補助医療 (Assisted Reproductive Technologies; ARTs) の発展と社会への進展に伴い、親子や親族のつながりは必ずしも所与のものではなく、人為的に操作、選択されるものだと見なされるようになってきている。特に第三者が関与する生殖 (third party reproduction) は、その初期から「(本当の) 親」は誰かという問題、あるいは複数の parenting という関心と切り離せない。社会的、法的、心理的、倫理的な利害が必ずしも一致しないなかで、医療技術は「生みの親」「遺伝の親」「育ての親」という親の複数化をもたらしてきた (Strathern1992)。その一方で、自然と文化の境界を曖昧化するとされた医療技術が、現実には遺伝子本質主義とも結びつき、血のつながり = 遺伝的つながりという構図が自然化され、強化されるという事態も同時に生じている。特に、提供配偶子や胚によって生まれた子の「出自を知る権利」をめぐる近年の動向は、「本当の親」および自らの遺伝情報へのアクセスを確保することを基本的人権として認め、これまでの匿名に基づく配偶子提供から情報の開示へと大きく方向性を転向した。この背景には、すでに先行する「開放型養子縁組」モデルがあるが、いずれにおいても、出生者の「出自」(生まれ、ルーツ) が明らかになることは、彼/彼女らの「アイデンティティ」の確立につながるという論理が前提となっている。そして、そのアイデンティティの確立に寄与するのが、遺伝子という「自然」のつながりを作り出すサブスタンスなのである。

人類学において、サブスタンス (身体構成物質) という概念は、80 年代以降、生物学的つながりに限定されない多様な親族形成の動的なありかたを捉えるために、親族研究に導入されたものである。このサブスタンスは、血や肉、体液といった身体を構成する物質から、食や環境、気、感情といった無生物も含む多様な概念で、どのようなサブスタンスが親子や親族、さらにはクランやカーストのような社会集団にとって他に優越する特権的つながりを生み出すと見なされるのか、ということは地域や社会によって異なっている。これまで南アジア社会の民族生殖論では、種 (精子) と大地 (子宮) といった隠喩や白い血 (精液) と赤い血 (経血) の結合による子どもの形成などが示されるとともに、形成段階における男性と女性の寄与の差異などが指摘されてきた。同時に、出生後も共食やモノのやり取りを介して、パーソンはつねに他者や環境との間でサブスタンスを交換し合いながら、その組成を組み替えていると見なされている (Marriot1976, Daniel1987)。

ARTs の場においては、妊娠、出産ではなく遺伝的つながりが「真正の」親子関係の根拠として強調されたり (体外受精型代理出産)、あるいは否定されたり (ドナー配偶子・胚を利用した配偶者間体外受精) するが、遺伝子と血や乳などの南アジア的なサブスタンスとの違いや類似性については、より詳細に検討する余地がある。同時に、サブスタンスは、親子のように個人間でやり取りされるのみならず、人種やエスニシティ、カーストという集団の間で共有され、継承されるものでもある。これまでの研究では、特にインドにおける宗教組織による献血が政治的ナショナリズムを高め、集団アイデンティティの一体化に働くことが報告されている (Copeman2009)。このサブスタンスの社会性が、インドの医療化された身体部品や生殖細胞のやり取りにおいて、どのように現れているか。人種やカーストという集団範疇の生成、その本質化 (= 自然化) と、その合わせ鏡としての他者との断絶を考えるうえで、伝統的なサブスタンスのみならず、遺伝子についても考察を深める必要がある。

参考文献

Copeman, Jacob 2009 *Veins of Devotion: Blood Donation and Religious Experience in North India*, Rutgers Univ Press.

Daniel, Valentin E. 1987 *Fluid Signs: Being a Person the Tamil Way*, Univ. of California Press.
Marriot, McKim 1976 'Hindu transactions; diversity without dualism' In Bruce Kapferer (ed.)
Transaction and meaning: directions in the anthropology of exchange and symbolic behavior,
pp. 109-142, Institute for the Study of Human Issues.
Strathern, Marilyn 1992 *After Nature: English Kinship in the Late Twentieth Century*,
Cambridge University Press

2. 研究の目的

本研究は、現代インド社会において遺伝子というサブスタンスとそれにまつわる諸実践が、いかに個と集団の関係性に変容をもたらしているのかを検討することで、科学的知識と実践が社会のなかで「共生成 (co-production)」される動態を明らかにすることを目的とする。本研究が対象とするのは、生命科学の進展にともない、親子や親族といった社会関係で共有、継承されるサブスタンス(身体を構成するもの)が「遺伝子化」されるとともに、カーストや人種という集団の範疇が強化されたりする、遺伝子の社会的布置のあり方である。本研究では、現代インドにおける遺伝子を、歴史的、私的、公的、科学的領域の4領域の重なり合いとして総合的に把握するために、まずは歴史的領域と私的領域を取り上げ、その接合について検討を行う。

3. 研究の方法

本研究は、文献調査と現地調査から、現代インドにおける遺伝子をめぐる社会的布置について、人種という集団の軸と世代間継承という親子の軸に注目して描き出す。

1) 文献調査としては、国内およびインドで資料渉猟を行うとともに、アーカイブスやデータベースを利用し、80年代以降の新聞記事、インターネット記事等も広く収集した。また、調査期間中は生殖補助医療法制定と改正の動きが活発化した時期と重なっており、第三者が関与する生殖に起因する親子関係の策定や、胚の扱いなどに関する資料を収集し分析した。

2) 現地調査としては、遺伝子にアプローチするために、問いを「遺伝的つながりがどのように認識され、語られるのか」、「遺伝子がどのような文脈でどのような言説として現れているのか」、「これまで研究されてきた南アジア的なサブスタンスとどのように比較できるのか」と設定し、西インドマハーラーシュトラ州の大都市部と地方中都市および農村部の3地域において、ARTsクリニックでの参与観察、専門家、配偶子ドナー、ARTsを利用している不妊症カップル、生殖年齢にある女性たちへの聞き取り調査を複数回実施した。

4. 研究成果

本研究を通して、以下に示すように、ARTsという文脈でサブスタンスとしての遺伝子が、親子関係から、人種という集団間関係のさまざまな次元で新たに立ちあらわれているさまを把握することが出来た。

1) 臨床の場における配偶子の選別：インドでは、代理母、配偶子ともに依頼親が自由に選択できる場合と、クリニックや配偶子バンクによる割り当ての2つのシステムが併存しており、クリニックによって異なっている。ドナーに人種、エスニック、カーストなどの形質的、形相的、社会的な近似性を求める依頼親は、市場よりも高額を支払い、よりドナーの選択肢が豊富な大都市のクリニックを利用するが、地方都市ではそもそも提供者(ドナーや代理母)の多様性を確保することが難しく、クリニック内で凍結配偶子や凍結胚のシェアリングを行っているところでは、そもそも配偶子の属性を患者の希望に応じて選別する余地が少ない。

2) カーストの代替としての肌の色? : 先行研究で指摘されてきた、第三者が関与する生殖にお

いて依頼親が持つ、代理母や配偶子ドナーに対する特定カーストへのこだわりは、医師らによって批判的に捉えられている。ドナーの選別を依頼親に任せないクリニックでは、カーストを理由とするドナーの選別を拒否し、そうした選好は「教育のない」「保守的な」人が望むものだとする否定的な見解を示していた。したがって、患者たちも臨床の場で特定カーストを希望することへの躊躇がみられた。それに対して、より一般的なのが、ドナーの「肌の色」に対する希望であり、それはカーストそのものへのこだわりではなく、インドにおける色の白さが持つ階級、カースト、美が複合的に結びついた高い社会的価値への希望だと見なされ、医師らによっても可能な限り許容される傾向にあった。

3) ムスリムの「人種化」の動き：一方で、カーストの差異を否定し、依頼親の希望を受け付けないクリニックでも、あらかじめクリニック側で行っている選別があり、それがヒンドゥーとムスリムのマッチングを避けるというものであった。医師は患者の希望というよりは、「後々何か問題があると困る」「患者に社会的葛藤をもたらす可能性がある」という理由から、あえて異宗教間のマッチングを避けていた。異宗教の配偶子をもらい子どもを持つことに対して、異人種の間で行われているのと同様の忌避観が共有されており、現代インドにおいて、ヒンドゥーとムスリムの差異が生物学的なレベルの差異として「自然化」されるという動きがみられる。インドにおけるムスリムとヒンドゥーの差異に対して流布される言説と合わせ、これをムスリムの「人種化」と捉えた。

4) 複合的なサブスタンス観：第三者が関与する生殖に関与する代理母、配偶子ドナー、ドナー配偶子を利用して子どもを持つ親へのインタビューからは、親子のつながりや遺伝子に対するときに矛盾する複合的なサブスタンス観が併存していることが分かった。代理母、配偶子ドナー、ドナー配偶子や胚の利用者はともに、配偶子に起因する遺伝的つながりよりも、妊娠、出産という gestation を重視しており、配偶子ドナー自身ですら自分が提供した卵子と、どこかで生まれている見も知らずの子どもとの間に何らかのつながりや、形質的な類似性が生じるとは見なしていなかった。同様に、ドナー胚を移植して子どもを持った複数の夫婦は、妻が子どもを妊娠、出産することが重要であり、それがどこから来たのかは重要ではない、と語っている。一方で、医師は代理母や代理出産依頼者に対して、遺伝的つながりが本当の家族関係であり、代理母とは一切何の関係もないという遺伝子主義の言説や、子宮という空き部屋を貸しているに過ぎないというレンタル言説を用いて、体外受精型代理出産を正当化し、推奨していた。また、アクターたちも時間の経過とともに、異なるサブスタンス観を受容したり、変化したりすることが確認された。このように、ARTs の実践において、状況に応じて複数のサブスタンスが組み合わせられ、個と集団のつながりが想像/創造されていることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 松尾瑞穂 | 4. 巻 22 |
| 2. 論文標題 公的経験を支える家族ネットワーク：西インド高齢女性のライフヒストリーから | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 多民族社会における宗教と文化 | 6. 最初と最後の頁 33-45 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 松尾瑞穂 | 4. 巻 81 - 4 |
| 2. 論文標題 （資料と通信）第14回ヨーロッパ社会人類学者学会（EASA）大会報告 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 文化人類学 | 6. 最初と最後の頁 719-722 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 松尾瑞穂 | 4. 巻 153号 |
| 2. 論文標題 サブスタンスから個と集団の関係性と範疇化を考える | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 民博通信 | 6. 最初と最後の頁 12-13 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 6件/うち国際学会 4件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Creating relatedness, Cutting Ties: Corporeal reality in third-party assisted reproductive technologies (ARTs) in India |
| 3. 学会等名 9th Annual Arts, Humanities, Social Sciences and Education Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Living with bodily contingency: Pregnancy Loss among childless women in West India |
| 3. 学会等名 11th INDAS international symposium “Life and Death in Contemporary South Asia” (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Blood and Egg: Making relatedness in third-party assisted reproductive technologies (ARTs) in India |
| 3. 学会等名 XI AFIN International Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 The body in difference: ‘naturalisation’ of the communal difference in India |
| 3. 学会等名 日本南アジア学会第32回全国大会 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Sociocultural Practices Influencing the Medical Termination of Pregnancy in India |
| 3. 学会等名 第71回日本人口学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 身体物質のやり取りから見えるもの サブスタンス研究の射程 |
| 3. 学会等名 日本文化人類学会京都人類学研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 ジェンダー化された身体の被傷性 インドにおけるリプロダクションと人工妊娠中絶 |
| 3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 西インドの高齢女性にみる親密圏とネットワーク：新たなエイジングの模索 |
| 3. 学会等名 宮城女子学院大学キリスト教文化研究所（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Surrogacy and gamete donation: Rethinking blood relations through ARTs in India |
| 3. 学会等名 2018年度第1回RINDAS/MINDAS/KINDAS研究グループ2共催国際セミナー |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Politics of Progeny and Eugenics in India |
| 3. 学会等名 Workshop on Progeny and Eugenics in Indian Context |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 The formation of Class identity in Modern Maharashtra: Debate on Eugenics, Sexuality and Birth control |
| 3. 学会等名 日本南アジア学会第31回全国大会（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Imagined relatedness: corporeal reality in third-party assisted reproductive technologies (ARTs) in Western India |
| 3. 学会等名 Centre for South Asia Studies, University of Edinburgh (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 Medical Termination of Pregnancy and Female Infanticide in India |
| 3. 学会等名 第74回歴史人口セミナー |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 高カースト女性にとっての公的世界とその経験 ポスト独立期インド社会の変化 |
| 3. 学会等名 現代南アジア地域研究 (MINDAS) 「社会変動と親密圏」第一回研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 The Formation of class in Modern Maharashtra: Birth control movements and the emergence of new middle class |
| 3. 学会等名 JSPS bilateral workshop on Caste Formation in Modern Maharashtra |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 ヒンドゥー聖地の資源 祖先祭祀の隆盛と在地社会の変容 |
| 3. 学会等名 共同研究会「聖地の政治経済学 ユーラシア地域大国の比較研究」 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 チットパーヴァン・バラモンの始祖伝説とカースト団体 |
| 3. 学会等名 日本学術振興会・二国間交流事業「近代マハーラーシュトラにおける近代カースト観の形成」 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 インドにおける血の隠喩 カーストと優生学の交差 |
| 3. 学会等名 共同研究会「グローバル化時代のサブスタンスの社会的布置に関する比較研究」 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 人の誕生をめぐる科学の社会文化論 |
| 3. 学会等名 人類学関連学会協議会第11回合同シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 女学生、良妻賢母、「意義ある仕事」 高カースト女性にとっての家族と公的世界 |
| 3. 学会等名 日本南アジア学会第29回全国大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 インドのサブスタンスにみる個と集団のつながりの動態 |
| 3. 学会等名 現代南アジア地域研究2016年度第1回合同研究会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 グローバル化とリプロダクションの動態 イスラーム・ジェンダー学との接合 |
| 3. 学会等名 キックオフシンポジウム「イスラーム・ジェンダー学の構築にむけて」 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 インドにおける出産をめぐる信仰と産後ケア |
| 3. 学会等名 第461回みんなばく友の会講演会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 松尾瑞穂 |
| 2. 発表標題 From Caste to Class: Formation of Social identity in Birth Control Movements in Modern Maharashtra |
| 3. 学会等名 JSPS bilateral seminar on 'Caste formation in Modern India' |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計7件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 石坂晋哉、宇根義己、舟橋健太、井田克征、松尾瑞穂、茶谷智之、山本達也、和田一哉 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 昭和堂 | 5. 総ページ数 296 |
| 3. 書名 ようこそ南アジア世界へ | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 川田牧人、白川千尋、飯田卓、近藤英俊、中村潔、松尾瑞穂、藤本透子、島園陽介、田中正隆、浜田明範、片岡樹、黒川正剛、津村文彦、中川敏、飯田淳子 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 春風社 | 5. 総ページ数 480 |
| 3. 書名 現代世界の呪術 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 杉本良男、松尾瑞穂、望月哲男、小林宏至、井田克征、高橋沙奈美、韓敏、前島訓子、井上岳彦、河合洋尚、櫻間瑛、川口幸大 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 風響社 | 5. 総ページ数 350 |
| 3. 書名 聖地のポリティクス ユーラシア地域大国の比較から | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 杉本良男、小西広大、竹村嘉晃、杉本浄、杉本星子、松尾瑞穂、松川恭子、三尾稔、インド文化事典編集委員会 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 806 |
| 3. 書名 インド文化事典 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 粟屋利江、井上貴子、押川文子、菅野美佐子、木曾順子、喜多村百合、小林磨理恵、小牧幸代、小松久恵、中谷純江、松尾瑞穂、南出和余、八木祐子 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 東京外国語大学出版会 | 5. 総ページ数 333 |
| 3. 書名 インドジェンダー研究ハンドブック | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 村上薫、後藤絵美、宇田川妙子、岡戸真幸、鳥山純子、岩崎えり奈、松尾瑞穂、細谷幸子 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 アジア経済研究所 | 5. 総ページ数 245 |
| 3. 書名 不妊治療の時代の中東 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 川橋範子、小松加代子、松尾瑞穂、小林奈央子、嶺崎寛子、飯國有佳子、磯部美里 | 4. 発行年 2016年 |
| 2. 出版社 昭和堂 | 5. 総ページ数 228 |
| 3. 書名 宗教とジェンダーのポリティクス：フェミニスト人類学のまなざし | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|